

生体病態学Ⅱ

Pathophysiology Ⅱ

単位数：5単位

○和田孝一郎 教授：薬理学

齊藤 源頭 教授

(特別講師： 高知大学医学部薬理学)

岡本 貴行 准教授：薬理学

安西 尚彦 教授

(特別講師： 千葉大学医学研究科薬理学)

白田 春樹 学内講師：薬理学

茂木 正樹 教授

(特別講師： 愛媛大学医学研究科薬理学)

1. 科目の教育方針

さまざまな炎症性疾患、虚血一再灌流障害を含む血流障害に起因する疾患について、それぞれの病態生理や原因、発症機序を個体レベルから分子レベルにいたる各層にまで幅広く学ぶことを目的とする。さらにそれらの診断法、治療法、対処法、予防法などを最新の研究結果や知見から学んでいくことを目指す。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

炎症性疾患、血流障害起因性の各種疾患の治療法、対処法、予防法を習得あるいは確立するために、炎症の発症メカニズム・虚血一再灌流障害発生のメカニズムとその病態生理を学習し理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 炎症の概念と発症機序を分子・細胞レベルで概説できる。
- 2) 病態発症に関与するトランスポーターや生体分子について概説できる。
- 3) 虚血一再灌流障害の概念と発症機序を分子・細胞レベルで概説できる。
- 4) 各種の炎症性病変・血流障害性病変（循環器系、呼吸器系、中枢神経系、結合組織系、等）の病態生理と発症メカニズムを概説できる。
- 5) 炎症と認知症との関連性について概説できる。

3. 教育の方法、進め方

オムニバス形式の講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。また、必要に応じて講座で行われる研究会に参加して最新の知見を習得したうえで、内容に関する討論を行う。講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更がある場合には都度、

連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼として評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

テキスト、教科書はとくに選定していない。最新の情報、知見などを論文等を基にした資料として適宜、配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	炎症学概論：組織の破壊と修復	和田孝一郎
2	急性炎症と慢性炎症；炎症細胞メディエータ、サイトカイン	和田孝一郎
3	炎症の病態生理・薬理学：NSAIDsとステロイド：最新の知見	臼田 春樹
4	トランスポーターと疾患・創薬	安西 尚彦
5	炎症の病態生理・薬理学：炎症における微小循環と接着分子	岡本 貴行
6	虚血—再灌流障害①：概論	和田孝一郎
7	虚血—再灌流障害②：血液成分と循環動態	岡本 貴行
8	認知症関連薬と高齢者のポリファーマシー問題	茂木 正樹
9	敗血症の病態と薬物療法：最新の知見	岡本 貴行
10	膀胱虚血と膀胱機能障害	齊藤 源頭
11	循環器疾患における虚血障害と炎症	臼田 春樹
12	疾患モデル動物を用いた病態発症機構の解析と薬物治療学	和田孝一郎
13	慢性炎症と線維化：各種疾患の薬物治療	和田孝一郎
14	炎症と血液凝固のクロストーク	岡本 貴行
15	慢性炎症性疾患の最新知見：今後の動向	和田孝一郎